



東京の会通信

No.316

2024年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail.marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100円

東京の会第35回定期総会

～特別講演のテーマはスワブ登録～

6月28日(土)、第35回東京の会定期総会を新宿のこくみん共済coop東京会館会議室で開催しました。会場に
来られない方もおられるため、今年もZoomを併用したハイブリッド形式で実施しました。総会では、2023年度の報
告及び2024年度の活動方針、役員を提案し全議案が承認されました。総会終了後は、採血が不要な新たなドナー登
録方法として、導入に向けたトライアルが進められている「スワブ登録」について、日本骨髄バンクの水口さんから
講演をいただきました。講演後は、今後の東京の会の活動の進め方について、オンラインを含めた出席者による
意見交換を行いました。

若い世代へのアピールに期待

東京の会では、毎年総会后に血液内科医や患者、ド
ナー、バンクを取り巻く団体の方から色々なテーマで
特別講演をお願いしていますが、今年には日本骨髄バン
ク広報渉外部の水口詞代さんに『骨髄バンクの現況と
スワブ登録について』と題してお話していただきました。

ドナー登録者数は現在55万人を超えていますが、そ
の内訳で40歳以上が58%を占め、10年後に55歳の登録
取消を迎える人は23万人、全体の41%になるそうです。
そのため、若年層のドナー登録者を増やす事が急務と
されており、スワブ登録はその一助になると考えられ
ています。20歳代のドナー登録者数は増えているそう
ですが、スワブ登録では献血に来ない人たちへのリク
ルートの幅も広がり、オンライン登録が可能のため、
さらに若い世代へのアピールが期待されます

スワブとは綿棒のような器具で、採血のために痛み
を伴う事もなく自分で口の粘膜をこするだけで細胞の
採取が可能です。骨髄バンクでは厚生労働省・日本赤
十字社・免疫細胞療学会の協力の元、今年の2月よ
り若年層へのスワブによる登録のトライアルを開始し
ており、来年度さらにその枠を広げ、2026年度からの

本格導入を目
指し、最終的
には年間若年
層3万人の登
録を目指して
いるそうです。

スワブ登録
導入の可能性
については以
前より耳にしてい
ましたが、日本は
検査機関が少ない
事がネックになり
導入に至るまで時
間を要していた
そうです。日本以
外のG7諸国は血
液検査以外での
登録がすでに開
始されており、フ
ランスでは唾液で
登録が可能との
事でした。検査キ
ットの種類によ
り採取方法に違
いが出たり、登
録会で実施する
場合は手技に人
員をとられるな
ど、現場ではま
だクリアしなく
てはならない
課題も見えてき
ているようです。
ドナー登録が手
軽になり登録者
数の増加が期待
できる一方、実
際にドナー候補
に選ばれた時の
気持ちのギャッ
プが大きく、も
しかしたら断る
人も増えるの
ではないかとの
心配も感じま
した。



スワブとは

- 先端がざらざらしている綿棒状の用具
- 頬の内側や舌の裏側をこすることで、口腔粘膜の組織を
HLA検査用の検体として痛み無く採取可能



※日本国内では血縁者間移植時のHLA検査等で使用

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和6年7月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	557,805	71,067	69,394
6-7月登録分	6,041	695	436
6-7月抹消数	4,396	573	-
実質登録増	1,645	122	-

患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	971,641人
ドナー登録抹消者数(累計)	413,836人
HLA適合報告ドナー数(累計)	387,006人
実質登録患者実数(現在)	1,694人(国内1,164人)
HLA適合患者数(累計)	55,195人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	28,817例(6-7月実施166例)

スワブ登録の普及によって、今後骨髄ドナー登録説明員の役割も大きく変わっていくでしょう。ドナー登録に興味を持ってくださる方に正しい情報を届け、スムーズに骨髄移植が進みたくさんの患者さんの命を救えるよう、ボランティアとして何ができるかを考えながら、今後も協力していきたいと思えます。(石崎友子)

イタリアンレストランで懇親会

総会後はイタリアンレストランを貸し切りにして、恒例となったランチ懇親会を開催しました。最近には主にオンラインでの参加となっている大先輩のみな

んをはじめ、久しぶりにお会いする方々、初参加の方も、おいしい料理とお酒を楽しみながら、話に花を咲かせました。来年東京の会は設立35周年を迎えます。歴史を作ってきた諸先輩と、新たな仲間の皆さんが一堂に会して交流を深め、今後の活動に向けた活力をもらった懇親会でした。



2023年度 決算報告

【収入の部】		【支出の部】		【資産増減明細】		
会費	228,000	収益事業費	240,348	資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
寄付	594,118	業務諸経費	25,978	現金	313,384	86,579
賛助会費	0	通信送費	327,072	郵便振替口座	368,050	398,050
事業収入	177,000	普及広報費	497,937	郵便貯金	431,757	790,696
受取利息	5	賃借料	198,000	普通預金	128,843	128,843
助成金	180,000	全国協議会会費	12,000	過払金	0	3,000
雑収入	0	寄付金	12,000	預り金 <small>*他者への寄付金</small>	▲ 5,000	▲ 5,000
		支払手数料	2,970	前受会費 <small>*2023年度会費預り金</small>	▲ 3,000	▲ 3,000
		慶弔費	10,000	未払金 <small>*会報印刷・発送費3月号分</small>	▲ 75,900	▲ 93,852
小計	1,179,123	小計	1,326,305	差引	1,158,134	1,305,316
合計	1,179,123	当期剰余金	▲ 147,182	当期剰余金		▲ 147,182
		合計	1,179,123	合計	1,158,134	1,158,134

<収支差額>
収入-支出= ▲ 147,182

<資産増減>
期末-期首=▲ 147,182

2024年度活動方針

〈1〉ドナー登録推進

骨髄バンクのドナー登録者の年齢層が上がるなか、ドナープールの維持・拡大には若年層の登録推進が不可欠です。日本赤十字社や骨髄バンク、近隣ボランティア団体等と連携して、献血ルームや移動献血会場、大学等におけるドナー登録推進活動を行い、一人でも多くのドナー登録者の確保に努めます。

〈2〉患者・患者家族への情報提供と支援

患者の闘病に役立つ情報を発信するとともに、患者・患者家族に対する具体的な支援活動を行います。

〈3〉骨髄バンクの普及啓発活動

会報やインターネットを活用した情報発信をおこなうとともに、イベントの開催や地域における普及啓発

活動を行います。

〈4〉より機能する移植医療を目指して

日本骨髄バンクや日本赤十字社、厚労省等に対し、ドナープール拡大に向けた新たな登録方法の導入など、必要な対策を求めます。

また、東京都に対して、ドナー支援制度の全自治体での実施や、ドナー説明員養成講座の継続、ドナー休暇制度の普及啓発などの政策実施を要望します。

〈5〉持続可能なボランティア活動に向けて

若い世代を中心とする新たな活動の担い手の育成、会計収支改善などを進め、東京の会の活動の持続を図ります。

2024年度東京の会役員

《代表》	二見 茂男	《会計監査》	大塚 和博	《顧問》	野村 正満
《代表代理》	若木 換		竹崎 恵子		新田 恭平
《事務局長》	光江 健太郎	《業務監査》	柴谷 みち子		三瓶 和義
《会計》	石崎 保夫		名川 一史		
	石崎 友子				

今年も、東京のド真ん中にゲレンデが出現、雪が降ります！

『東京雪祭2024』恒例の開催、代々木公園にみんな集まれ！

皆さん良くご存じの、荒井daze善正さんが代表の「一般社団法人 SNOWBANK」が主催する『東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2024』が今年も開催されます。

『楽しいから始まる社会貢献』をテーマとして、普段献血ルームに足を運ばない若者に献血・骨髄バンクを知って行動してもらうキッカケの場づくりとなっています。会場では、プロスノーボーダーの素晴らしい滑りの披露や、日頃の実力を競う真剣勝負のスノーボード競技の他、音楽ライブイベント、ステージでのパフォーマンスなどが繰り広げられます。雪のゲレンデでの子供のソリ遊びやトランポリン、絵の具の落書きコーナーなど、家族連れでも楽しめます。スケートボードのパークも設置されますのでオリンピックメダ

リストも来るかも??? キッチンカーも配備されていますが、献血とドナー登録は「飲む前に取る！」をお忘れなく！

今年も献血バスを4台配置し、全国協議会で骨髄バンクのブースを設け、首都圏のボランティアがドナー登録説明員を担うとともに、献血と骨髄ドナー登録を来場者に呼び掛けます。

皆さんお誘いあわせの上、ご来場ください！

【日程】 2024年11月9日(土)および10日(日)

【会場】 渋谷区代々木公園B地区イベント広場

【主催団体ホームページ】 <https://sbpif.net/tokyosnowfes/>

11月17日はチャリティコンサート「響(Hibiki)」へ！

前号でもお知らせ致しました、東京の会主催のピアノ三重奏チャリティコンサート「響(Hibiki)」のご案内です。コロナ禍の中断を経て今年で30回を超えるこのコンサートは、出演者の三戸素子さんと小澤洋介さんの留学時代のご学友が、白血病でドナーを待ちながら闘病していたのをきっかけに始めたものです。ご学友は残念ながら、ドナーが現れることなく亡くなれましたが、三戸さんと小澤さんは骨髄バンクのドナー登録者が一人でも増えることを願ってコンサートを続けて下さっています。ピアニストの高田匡隆さんも、趣旨に賛同してもう10年近くご出演いただいております。毎回息の合った素晴らしい演奏を聞かせて下さい。

会場となる求道会館は、コンサートのタイトル「響」

の由来でもある、豊かな響きの歴史的建物です。コロナ禍以降、昨年まで閉鎖されていた2階の客席を今年

は使用できることになりましたので、より多くのお客様にお越しいただけるようになりました。2階席は1階席とはまた違った響きを堪能できますので、初めての方もリピーターの方も、お誘い合わせの上、是非聴きにいらっしやして下さい。

日時:2024年11月17日(日) 15:00開演(14:30開場)

場所:求道会館(東京都文京区本郷6丁目20-5)

南北線「東大前」駅 徒歩5分

丸の内線・大江戸線「本郷3丁目」駅 徒歩15分

出演:三戸素子(ヴァイオリン)・小澤洋介(チェロ)・高田匡隆(ピアノ)

曲目:クライスラー コレルリの主題による変奏曲
チャイコフスキー メロディ 変ホ長調 作品42-3

ショパン マズルカ 作品17より

ドヴォルザーク ロンド ト短調 作品94

ドヴォルザーク ピアノ三重奏曲第4番 変ホ長調「ドゥムキー」作品90

料金:3,000円(全席自由)

※お申し込み方法は同封のチラシをご覧ください。

会場の求道会館



東京の会

「9月、10月定例会」 のお知らせ

9月21日(土)、10月19日(土) 午後5時30分より

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン(Zoom)での参加も可能です。

会場:こくみん共済coop東京会館

(旧:全労済東京会館)3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※11月定例会予定・11月16日(土)午後5時30分より

牧師さんのドナー体験記を転載します

東京の会会員の大塚礼子さんが、教会のホームページに掲載されたドナー体験談を皆さんにも読んでほしいとの思いで、執筆者の中村尚子さんに東京の会通信への転載の了承を得てくれました。本文掲載に先立ち、お二人の声を紹介します。

紹介者から一言 東京の会 大塚礼子さん

「命のおすそ分け」を書かれた中村尚子さんは現在、東大阪教会の牧師をされています。牧師のブログや教会のホームページにアップされたものを、知人に教えられて読むことができました。文中に書かれている「大学の後輩」は、私の長男で白血病でしたがドナーが見つからず召天しました。中村さんは、骨髄バンクドナー減少の危機を知って、ご自身の体験を書かれました。

著者から一言 中村尚子さん

さっきお電話があって、私の書いた骨髄移植体験記が骨髄バンクを支援する団体の会報に載ることになりました！書いたはいいいけど、教会のホームページだけではなかなか広まらないので困っていたのでうれしいです。

連絡をくださったのは、神学部時代に後輩だったOくんのお母様でした。Oくんは人学部コースの学生でしたが、闘病生活の中で神学コース転入を決意し（つまり牧師になる決意）、果たせず天に召されました。私がお見舞いに伺ったときに渡したヘブル語のテキストを、ずっと枕元において白血病と闘っていたのだと以前お聞きしました。骨髄移植体験をしたものとしても、また牧師としても、Oくんの思いを引き継いで生きていけたらと願います。

命のおすそわけ～骨髄バンクにドナー登録を！

中村尚子

●はじめに

骨髄バンクへのドナー登録をお願いしたく、体験記をここに書くことにしました。ちょっとの間お付き合いください。骨髄バンクは、白血病や再生不良性貧血など血液の病気の治療を必要とする患者さんのために、骨髄液を提供するドナー（提供者）に登録する機関で、18歳から54歳までの健康な方なら登録することができます！人の血液型はみなさんよくご存じのABO式でいくつかのタイプに分類されますが、一方、あまり知られていませんが、白血球の型はもっと複雑で多くのタイプに分かれます。骨髄移植には提供する側とされる側の白血球のタイプが一致することが必要です。より多くのドナーが骨髄バンクに登録することで、患者さんの白血球のタイプと一致するドナーが見つかる確率が高くなります。技術が向上している現在でも、骨髄移植を実現することができている患者さんはまだ半数ぐらいた聞いています。移植を切望する患者さんが、一人でも多く骨髄の提供を受けて元気になれるよう、骨髄バンクに登録をお願いしたいのです。

●登録のきっかけ

今から30数年前のことです。そのころの私は、いとこの息子、大学の後輩など親しかった人を次々と白血病で天国に送り、もっと有効な治療の方法はなかったのかと悲しんでいました。そんな私は、大学にアピールに来ていた「骨髄バンク」の存在を知り、

背中を押されるように登録しました。登録は確か献血のついでに簡単にできたのを覚えています。ほんの少し血液を採取するだけで白血球のタイプを調べてもらえ、無事バンクに登録されました。

●当たりました！

登録から4年ほどたって、29歳の頃、骨髄バンクの方から電話があり、「あなたの血液型がある患者さんのタイプと一致しました」と言われました。私は半ばバンクに登録したことさえ忘れていました。急に現実を突きつけられ、浮かんだ言葉は「当たり」でした。仲間内でバンクに登録した人は結構いたのに、「当たった」人はまだ周囲に誰もいませんでしたから、本当にびっくりしました。ひとまず、待っている患者さんのためにも、前向きに動かなくてはと腰をあげた私でした。

●クリアすべきこと2つ

そのころ私はもう仕事についていたので、まず職場が骨髄移植の準備や採取提供のためにお休みをくれるかということが課題でした。現在は多くの会社などでドナー休暇が取れるようになってきているということですが、当時はまだ骨髄移植があまり知られていなかった時代でした。早くお休みをくださり、わたしのいない所をカバーしてくださった方々がいて感謝でした。

もう一つは、私の両親の許可が必要だったことです。当時私は広島県に住んでいましたが、父母は関

東におり、電話で報告しただけで、直に会って説得することができないままバンクの方からの連絡が両親にいつてしまい、余計な心配をかけてしまいました。両親の一番の心配は「麻酔の事故の可能性がゼロではない」ということでした。その可能性は限りなくゼロに近かったのに、両親には娘のことを思うあまり「危険がある」という風に聞こえてしまったのです。特に父が麻酔のアレルギーを持っていたことがネックになり、私自身もナーバスになってしまい、「もし私が死んだら…」と思いつめ、請求のきていた公共料金をすべて払い、汚かった部屋をきれいに片付けました。あとで思いだすと、とんだ笑い話です！

●骨髄採取提供の準備

とにもかくにも、骨髄採取の病院と日程が決まり、入院の1か月ほど前に提供前の準備に入りました。当時住んでいた福山から広島市内の病院まで週1回、4回ほど、新幹線で往復しました(交通費は患者さんの負担)。病院では、提供前の健康チェック、骨髄採取中に輸血するための自己血採取などを行いました。まだ若くて、人間ドックにも興味のなかった私でしたが、このチャンスに健康をチェックでき、良かったと思います。ただ、自己血を400cc採った日の帰り道、広島の市電の中で、今までなかったことのない貧血でうずくまったことは記憶に残りました。

●サポートされて

職場のみなさんは、お休みをくださっただけでなく、いつしか患者さんにエールを贈るための千羽鶴まで折って下さいました！千羽鶴は私の骨髄液と一緒に患者さんに届けられたということです。私自身もとてもうれしかったです。また、そのころ、体重30キロにも迫る大型雑種犬の太朗と一緒に暮らしていましたが、4日ほどの私の留守中に太朗を預かってくださる方もあり、安心して出かけることができました。太朗もおりこうさんに待っていてくれましたよ！

●いよいよ骨髄採取！

採取のために入院したのは11月のある日でした。プライベートのことからか、最初からICU(集中治療

室)に案内され、神経が太いのか、前日もぐっすり眠れました！採取当日のことはほとんど覚えていません。全身麻酔で、ちょっと麻酔の注射が痛かった程度で、あっという間にパッと眠りに落ち、時間をワープするように瞬時に目が覚め、執刀医が「骨髄採取は終わりましたよ！」と言われたのに「そうですか。ありがとうございます！」と答えて笑われてしまいました！

採取の翌々日には晴れて退院！帰りの新幹線から、黄色く色づいた銀杏の林が見えたとき、その美しさに「生きてて良かった」としみじみ思ったのを思い出します。福山に戻ると、職場のみなさんが笑顔で出迎えて下さいました。もちろん、息子犬の太朗も飛びついてきました。やっぱり「生きてて良かった」です！

●おわりに

こうして、結局何のリスクもなく、私の骨髄採取提供は終わりました。しばらく、自転車に乗る時に、骨髄液を採取したお尻の針の跡がじんわり痛かったことを除けば…。お尻の痛みが消えるころ、心を占めたのは、提供を受けた患者さんのことでした。私のような者の骨髄液が効くのだろうか。何か変な病気をうつしたりしていないだろうか…などなど。移植の前には、患者さんは自分の造血細胞を一切殺して、無防備な状態になるそうで、そんなことも心配になりました。

骨髄の提供をした数年あと、私は骨髄バンクのアピールのために何回か講演をしました。その際に主治医から内緒でこう告げられました。「あなたが提供した患者さんは、大阪に住んでいる17歳の女の子で、移植が成功して元気に学校に通っていますよ」良かったあ!!あれから30年近たち、私は今、彼女の暮らしていた大阪に住んでいます。もしかすると、街の中ですれ違っているかもしれない、近くに住んでいるかもしれない、と思うとわくわくします！ちょっとだけ命のおすそわけをしただけに、他人とは思えなくなりました。

11月会報発送

「おりおり」のお知らせ

日時：2024年11月3日(日)14時より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅	徒歩5分
都営浅草線「東日本橋」駅	徒歩7分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅	徒歩7分
JR総武快速線「馬喰町」駅	徒歩5分

※1月「おりおり」予定 2025年1月5日(日祝)14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2024.6.16～8.15)

光江健太郎さん 20,000円／新田恭平・雅子さん 10,000円／名川一史さん 5,000円／匿名希望 20,000円
中谷哲郎・光子さん 10,000円／竹崎恵子さん 3,000円／三瓶和義さん 7,000円／大塚礼子さん 3,000円
鈴木孝宏さん 7,000円／水野暁子さん 2,000円／村上順子さん 2,000円／名川動物病院募金箱 5,309円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼今年の8月は、連日外を歩くのが危険ほどの猛暑が続き、熱中症で亡くなる方も多く出るなど災害級の暑さでした。災害といえば九州の日向灘で大きな地震が発生し、政府が初めて「南海トラフ地震臨時情報」を出して地震への備えを国民に呼びかけました。さらにお盆の時期に台風が関東に接近し、新幹線や航空機が運休・欠航するなど、大きな影響が出ました。

▼これをきっかけに避難場所や備蓄品の確認、災害対策用品の購入など、災害への備えを見直した方も多いのではないのでしょうか。災害はいつ起こるか分かりません。大災害の前に人間は無力ですが、少しでも命が助かるように日ごろからできる準備と心構えをしておくこと、そして過去の災害の教訓を忘れずに備えを継続していくことが大切です。

▼8月6日は広島、9日は長崎の原爆記念日、そして15日は終戦記念日でした。今年は戦後79年、来年は80年になります。戦争体験者は高齢になり、亡くなる方が増えています。父や母から戦争の悲惨さ、愚かさを

聞いて育った私たちの世代にとって、次の世代に戦争を語り継ぐことも大切な課題だと思います。

▼同じく8月に開催されたパリオリンピックで日本はメダルラッシュでした。スポーツには闘いの要素があり、オリンピックは個人の勝負だけでなく国家間の競い合いでもあります。しかし同時に国や地域、人種や性別を超えてスポーツを通じた感動をもたらし、世界中の人々の心をつなげることができます。

▼自然災害は防ぐことができません。でも戦争は人間が起こすものです。人間が起こすものであれば、人間が防ぐことも止めることもできるはずですが。しかし一度起きてしまうと止めるのは困難を極めます。ウクライナやガザで起きている悲劇はそのことを如実に示しています。オリンピック開催期間中の停戦も呼びかけられましたが、実現しませんでした。

▼こうした現実を前に私たちはどうすればよいのでしょうか。災害に備えるように戦争が起きることを前提として、防衛力を強化するという選択肢もあります。しかしその前に戦争を防ぐこと、起きてしまった戦争を止めること、そのための外交努力と国際協力が何より重要です。そして、私たち一人ひとりが平和への願いを強く持つこと、世界から戦争をなくすために、決してあきらめず、できることから始めることだと私は思います。(S)

東京の会通信の発送先の見直しについて

東京の会通信は、会員の皆さんをはじめ、寄付を頂いた方、骨髄バンク、日赤、ボランティア団体、行政、マスコミなどに約500通を発送してきましたが、10月から郵便料金が値上げとなることになり、郵送費の増大が財政上の負担となることが想定されます。

つきましては会員以外関係先等への送付の見直しに加えて、過去2年以上会費や寄付の納入がない個人の方についても、来年1月号から発送を停止させていただくことを検討しています。会費未納の方々におかれましては、ぜひ会費の納入をお願いいたします。過年度の会費納入は不要ですので、今年度会費のみお振込みください。会費の納入状況が不明の方は下記アドレスにメールでお問い合わせください。

また、会員以外関係先等で発送停止をご希望の場合はメールでお知らせください。なお、会員の中には「ホームページから閲覧できるから発送しなくてよい」という方もおおいかもしれませんが、会員の方への義務として、また各種のお知らせなどを同封させていただくことを含めて、引き続き会報を発送させていただきますので、よろしく願いいたします。

<ご連絡・お問い合わせ先>

【東京の会メールアドレス】marrow_tokyo@yahoo.co.jp

ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**